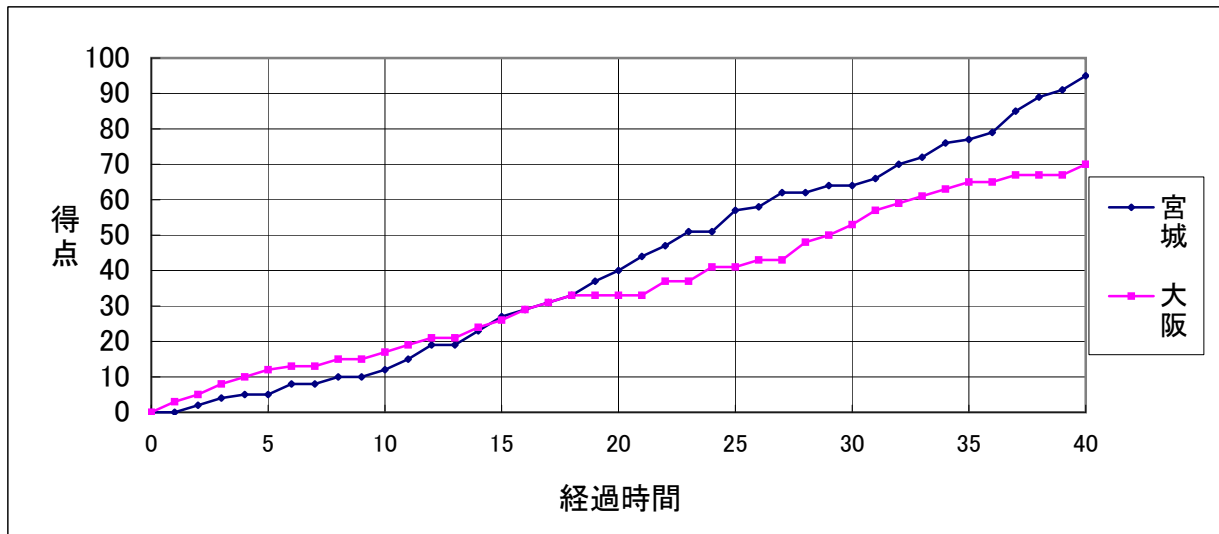


大会名	チャレンジ！おおいた国体 第63回国民体育大会 バスケットボール競技会	A2	11:45	少年男子 一回戦													
		宮城 95 ○	<table border="1"> <tr><td>12</td><td>-</td><td>17</td></tr> <tr><td>28</td><td>-</td><td>16</td></tr> <tr><td>24</td><td>-</td><td>20</td></tr> <tr><td>31</td><td>-</td><td>17</td></tr> <tr><td>-</td><td>-</td><td>-</td></tr> </table>	12	-	17	28	-	16	24	-	20	31	-	17	-	-
12	-	17															
28	-	16															
24	-	20															
31	-	17															
-	-	-															
期日	2008年（平成20年）9月28日（日）																
会場	新日鐵文化体育センター																

主審 渡邊 整

副審 坂本 信教



宮城

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F
4	藤井 則希	2	0	1	0	2
◎5	小野 大貴	18	0	7	4	3
○6	安藤 誓哉	2	0	0	2	0
7	新妻 一輝	18	0	8	2	1
8	宮澤 耀佑	1	0	0	1	1
○9	菅原 浄	20	2	7	0	1
○10	我妻 典明	2	0	1	0	3
○11	石川 海斗	22	2	6	4	1
12	菊地 大	1	0	0	1	3
13	高田 歳也	5	0	2	1	0
14	佐藤 文哉	4	0	2	0	1
15	村田 翔	0	0	0	0	0
16						
17						
18						
コーチ	佐藤 久夫					
	合計	95	4	34	15	

大阪

No.	氏名	点	3P	2P	FT	F
◎4	木田 晶久	12	2	2	2	0
○5	高橋 伸太郎	12	0	6	0	4
○6	新井 成勳	10	0	5	0	3
7	村長 直也	5	1	1	0	0
8	大野 龍作	0	0	0	0	1
9	奥田 翔	5	1	1	0	2
○10	木田 裕久	7	1	0	4	4
11	古家 直樹	0	0	0	0	1
12	横田 充紀	3	0	0	3	0
13	川上 卓馬	2	0	1	0	1
14	木下 貴裕	3	1	0	0	0
○15	藤高 宗一郎	11	0	4	3	3
16						
17						
18						
コーチ	小村 基					
	合計	70	6	20	12	

○はスターター(◎はキャプテン) 3P…3点シュート 2P…2点シュート FT…フリースロー F…ファウル

戦評

第10 両者ともディフェンスはハーフコートマンツーマンでスタート。たちあがり、大阪#4の2本連続3Pが決まる。宮城のシュートがごとごとくリングにきらわれ、序盤10-5で大阪リード。宮城#5がドライブ、カットインで果敢に攻め得点していく。さらに、宮城スピードのある攻撃を繰り返すが大阪の粘り強いディフェンスに阻まれ、なかなか得点ができない。序盤の5点差リードのまま、17-12大阪リードで終了。

第20 大阪#6のジャンプシュートで7点差とするが、宮城#9の3P、ドライブの連続得点と宮城#11のドリブルワンマン速攻で一気に同点。宮城1-2-2ゾーンにきりかえる。しかし、大阪#10がコーナーから落ちて3Pを決める。宮城#11のドライブ、ファールからのフリースローで逆転。宮城、逆転したところで、ハーフコートプレスをしかけるが、大阪#9が冷静に確実に3Pを決め、またも同点とする。お互いアウトサイド、インサイド、ドライブと多彩に攻撃し、一進一退の白熱したゲームが続く。終盤、宮城#9の3Pをふくむ3連続得点で7点差とし、40-33宮城が逆転に成功し、第20終了。第30 宮城スローインで開始。大阪もゾーンにきりかえ、宮城#11をフリーにさせないようにゾーンの形を変えながら対応。宮城オールコート2-2-1ゾーンプレスで大阪のリズムを崩そうとする。ハーフコートでも、宮城は速いしかけから、連続インターセプトからの速攻で、一気に57-41とつきはなす。大阪はマンツーマンに戻し、たてなおしを図る。宮城#11のバックビハインドドリブルなど抜群の個人技でディフェンスをかわしドライブインで連続得点する。終盤、大阪#14が3Pを決めリズムをつかむ。さらに大阪#7が3Pを決め64-53で終了。

第40 大阪スローインから#15がシュートを決め9点差とし、反撃のチャンスがうかがう。しかし、宮城は、リング下へのパスをつなげ確実に得点していく。大阪#10から#15のループパス&シュートが決まりペースをつかみかけるが、宮城#11のドリブルワンマン速攻でその流れをくたく。宮城#5もジャンプシュートを決め大阪の追撃を許さない。大阪#15と#5もインサイドで応戦する。宮城は、カッティングからの連続攻撃、ホールマンへのプレッシャーなど動きがとまらないディフェンスでペースをつかみ得点差をひろげていく。運動量の豊富な宮城が攻守にさえ、95-70で勝利をおさめる。

記載者	高山 利生 (所属) 大分県バスケットボール協会
-----	--------------------------